

# 芦生の森自然観察会の応募状況について

芦生研究林 荒井亮

## 1. はじめに

芦生研究林では2006年10月より一般の方を対象とした芦生の森自然観察会を春、秋に行っており、2009年秋の開催で7回目となった。今回の報告では、2009年秋の観察会で行った広報の方法、応募状況、および参加者アンケートの結果をもとに、広報方法の効果等を検討した。

## 2. 募集内容および広報方法

募集内容は以下に示すとおりである。

- ①募集期間：9月1日～10月2日
- ②募集人数：20名（応募者多数の場合は抽選）
- ③参加費：無料
- ④募集対象者：中学生以上（中学生は保護者同伴）、整備されていない山道を歩ける方、自動車等で現地集合のできる方
- ⑤申込方法：往復はがきに必要事項を記入、家族に限り複数名の申し込みが可能

広報方法および広報の開始時期は表1のとおりである。まず、9月1日に芦生研究林ホームページ（以下、HP）、京都大学HP、フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）HPに掲載、構内・資料館でのポスター掲示とチラシの配布を行った。続いて、9月5日に由良川市民講座にてチラシを配布、9月7日になんたんテレビ文字放送（南丹市ケーブルテレビ）を開始し、9月8日にはフィールド研BLOGに掲載された。

表1 広報方法および開始時期

広報方法	掲載場所	開始時期
HP	芦生研究林 HP	9月1日
	京都大学 HP	9月1日
	フィールド研 HP	9月1日
	フィールド研 BLOG	9月8日
テレビ	なんたんテレビ文字放送	9月7日
チラシ	由良川市民講座	9月5日
	構内、資料館	9月1日
ポスター	構内、資料館	9月1日

\*由良川市民講座でのチラシは当日のみ

広報方法および広報の開始時期は表1のとおりである。まず、9月1日に芦生研究林ホームページ（以下、HP）、京都大学HP、フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）HPに掲載、構内・資料館でのポスター掲示とチラシの配布を行った。続いて、9月5日に由良川市民講座にてチラシを配布、9月7日になんたんテレビ文字放送（南丹市ケーブルテレビ）を開始し、9月8日にはフィールド研BLOGに掲載された。

## 3. 応募状況およびアンケート結果

応募数および応募人数は図1に示すとおりで、定員20名を大幅に超える74通110名の応募があり、新聞での広報を行った2006年秋を除いて最も多かった。都道府県別の申し込み数は

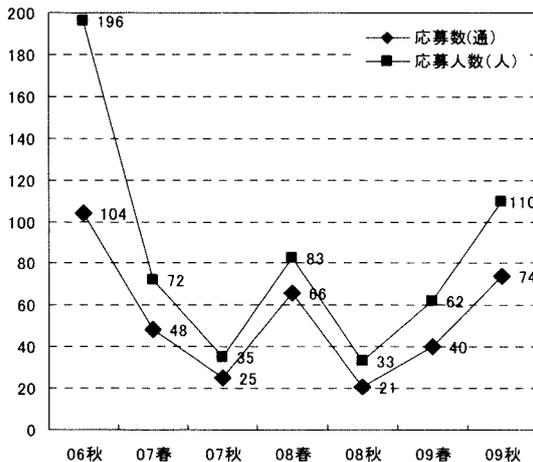


図1 応募数および応募人数

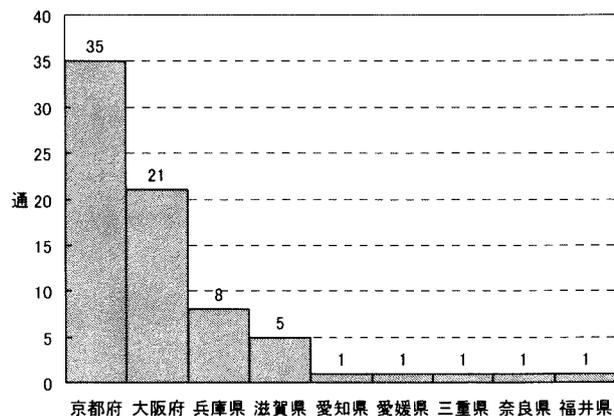


図2 都道府県別応募数

図 2 に示すとおり、最も多かったのは京都府の 35 通、続いて大阪府 21 通、兵庫県 8 通、滋賀県 5 通となり、近畿 4 府県からの応募で全体の 93% となった。また、最も遠方からの応募は愛媛県からであった。

広報を開始してからの日別応募状況は図 3 に示すとおりである。応募数が特に多かったのは 9 月 30 日で、続いて 9 月 9 日、10 月 1 日であった。応募が増えてきた時期はすべての方法で広報が開始された後、応募受付締め切りに近づいたところであった。

「Q. 今回の観察会の開催をどこで知りましたか?」に対する参加者アンケートの結果(図 4)を見ると、最も多かったのは HP の 60% (12/20 名) で、続いてチラシ 20% (4/20 名)、その他 15% (3/20 名)、なんたんテレビ文字放送 5% (1/20 名) であった。

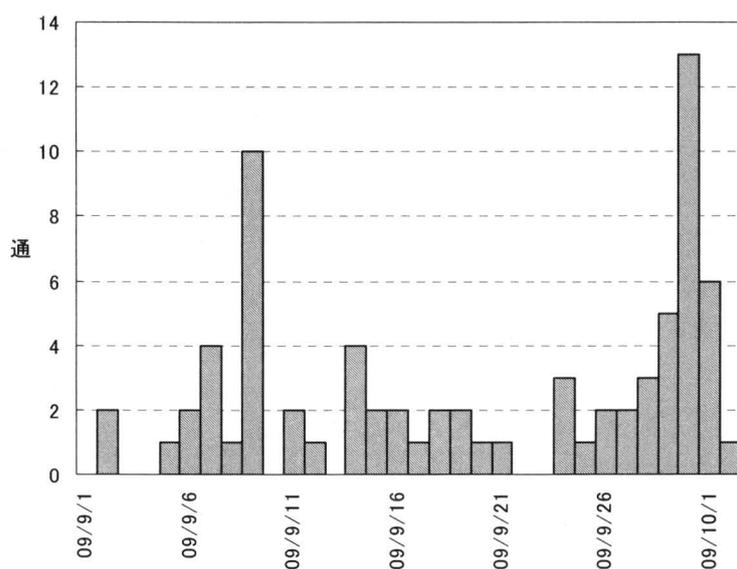


図 3 日別応募状況 (消印日にてカウント)

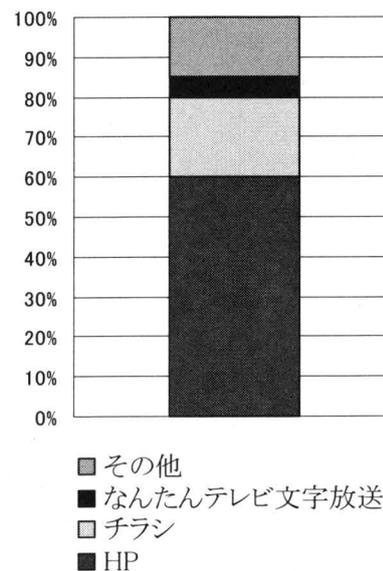


図 4 参加者アンケート

#### 4. まとめ

現在までに開催した観察会の応募数を見てみると、初回であった 2006 年秋を除くと、秋の観察会の応募は春の観察会に比べ少なくなる傾向があったが、今回は春を上回る応募があった。これは今回から始めたイベントでのチラシ配布を行った効果が大きかったのではないだろうか。ただし、2009 年春の観察会までは、チラシ配布は芦生研究林構内のみで行っていたが、あまり広報としての効果はなかったと思われる。由良川市民講座でチラシを配布した数日後に応募が増えたことやアンケートの結果から考えると、イベントでのチラシ配布であれば、ある程度の効果があると思われた。広報をする地域としては、一般入林者も多い京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県で行うと効果的であると思われる。

2006 年秋の結果から、新聞の広報能力が突出して高いと考えられる。しかし、その後の応募状況の推移を見る限りでは、新聞での広報を行わなくても募集定員を超える応募があると思われる。ただし、新聞での広報を行わない場合は、HP の影響が最も大きいため、芦生研究林 HP は適宜更新し、情報発信の場として機能している状態にしなければならないだろう。

今回の報告では、応募結果および観察会参加者へのアンケート結果から広報方法の効果について推測したが、今後は応募の申し込み時点で、どこから情報を得ているか等を把握し、情報発信の方法をさらに検討していきたい。